

C-2 福岡県八女市黒木方言における子音語幹動詞のテ形派生音韻規則: 韻脚を形成しない母音の削除

加藤幹治 (東京外国語大学大学院)・井手口将仁 (燕山大学)

1 はじめに

子音語幹動詞のテ形派生において語幹末に長母音が生じる現象は日本諸方言で広く知られている。例えば、宮崎県椎葉村尾前方言では、「笑って」//waraw-te//, 「遊んで」//asob-te//が(1)のように出力される。

- (1) a. waraw-te → waroo-te
- b. asob-te → asuu-de

この現象は、語幹末分節音の母音化と母音の融合というプロセスで理解することができる(下地 2016)。

ところが、九州方言においては稀に、テ形で長母音が期待される環境に、時として短母音が変則的に観察される。例えば、福岡県八女市黒木方言では、「遊んで」//asob-te//, 「笑って」//waraw-te//は(2)のように出力される。

- (2) a. waraw-te → waroo-te
- b. asob-te → aso-de

従来の研究ではこの現象について報告はなされているものの(cf. 有元 2007)、その出現の構造が解明されてこなかった。

この現象を理解する上での問題点は以下の二点に集約される:

1. 常に短母音が出現するわけではなく、長母音も出現することもある(2a)ため、この単母音の出現が語彙的に決まったものなのか音韻的に条件付けがあるのかが分からない。
2. 他の方言で長母音が期待される環境に、黒木方言では短母音も出現する(2b)ため、他方言の分析がそのまま適用できない。

本研究は、まさにこの変則的短母音の出現を持つ事例である黒木方言を精査し、この現象の構造解明という未解決の問題に取り組むことを目的とする。本研究では、拍数をコントロールした約 60 語の黒木方言の動詞(表 1)を対象に、拍に加えて韻脚という韻律単位を用いることによって分析した。

表1 検証に用いた動詞の一覧

b 語幹	korob	tob			
m 語幹	am	donzjagom	hasam	jom	kam
	kum	tanosim	tatam	tum	
w 語幹	waraw	utaw	hirow	moraw	
s 語幹	hanas	hogas	hos	kas	kaes
	kees	kogarakas	koros	okos	os
	sas	tobas			
k 語幹	hak	hawak	hittuk	jak	kak
	migak	muk	ok	sek	tuk
	kog	tunag	kag	hag	
t 語幹	mat	ut			
n 語幹	sin				
r 語幹	hasir	keer	jar	hosutur	modor
	agar	meer	koor		

その結果、§2 において、韻脚という韻律単位を導入した上で、下記の (3), (4) の規則を設定すれば、この変則的短母音を音韻的な条件付けで説明することができると結論する。

- (3) 語幹内の拍を語頭から二拍ずつ韻脚にせよ。
- (4) 語幹内における韻脚外の母音を削除せよ。

また、§3 において、本研究が提案する黒木方言の解釈が、他の方言における変則的短母音の解釈にも有効である可能性を主張する。

2 テ形派生の音韻規則

本節では、黒木方言のテ形に出現する変則的な短母音がどのような規則によって理解できるかを示すため、テ形派生に関する音韻規則を、順を追って示す。

子音語幹動詞に *-te* が接続した場合、語幹末子音の母音への交替、母音連続の融合、韻脚外母音の削除などの過程を経て出力される。テ形派生規則の種類及び適用順は、黒木 (2015), 下地 (2016) で指摘された派生規則に (3,4) を加えることで、(5) のように一般化できる。

- (5) *ŋ* の有声化 → 語幹末子音の交替 → 母音連続の融合 → 韻脚外母音の削除 → 半母音の削除
 GV_1C-de GV_1V_2-de GV_3V_3-de GV_3-de V_3-de

以下では各過程を詳しく見ていく。

2.1 /t/の有声化

-te の/t/が有声化する。(6)に規則を示す。

- (6) 語幹末子音が有声 (/w/, /r/を除く) の場合、-te の/t/を/d/へ交替せよ。
- 「飛ぶ」 tob-te → tob-de
 - 「掻く」 kak-te (N/A)

2.2 語幹末子音の交替

語幹末の子音はそれぞれ特定の音へ交替する。規則を (7), (8), (9) に示す。

- (7) 動詞語幹末の子音が/b, m, w/の場合、これを/u/へ交替せよ。
- 「飛ぶ」 tob-de → tou-de
 - 「尻について座る」 donzjagom-de → donzjagou-de
 - 「笑う」 waraw-te → warau-te
- (8) 動詞語幹末の子音が/k, g, s/の場合、これを/i/へ交替せよ。
- 「掻く」 kak-te → kai-te
 - 「繋ぐ」 tunag-de → tunai-de
 - 「消す」 kes-te → kei-te
- (9) 動詞語幹末の子音が/r/の場合、これを/l/へ交替せよ。
- 「帰る」 keer-te → keet-te

2.3 母音連続の融合

語幹末子音の母音化によって生じた母音連続 V_1V_2 は、同一の母音の連続 V_3V_3 (またはわたり音の挿入を伴った jV_3V_3) へ交替する。どのように交替が起きるかを (10) に示す。

- (10)
- ui → ii, 「付く」 tui-te → tii-te
 - ei → ee, 「消す」 kei-te → kee-te
 - ai → ee, 「嗅ぐ」 kai-de → kee-de
 - oi → ee, 「漕ぐ」 koi-de → kee-de
 - au → oo, 「買う」 kaw-te → koo-te
 - ou → oo, 「飛ぶ」 tou-de → too-de
 - iu → juu, 「楽しむ」 tanosiu-de → tanosjuu-de

2.4 韻脚形成・韻脚外母音の削除

母音連続 V_3V_3 が削除規則を受けて V_3 になる。母音の削除規則を (3), (4) に示す (再掲)。韻脚を () で、韻脚外の母音を下線で示す。

- (3) 語幹内の拍を語頭から二拍ずつ韻脚にせよ。
- a. 「遊ぶ」 asoo-de → (aso)o-de
 - b. 「飛ぶ」 too-de → (too)-de
- (4) 語幹内における韻脚外の母音を削除せよ。
- a. 「遊ぶ」 (aso)o-de → aso-de
 - b. 「飛ぶ」 (too)-de (N/A)

2.5 半母音の削除

音素配列制限を満足しない半母音を削除せよ。

- (11) a. 「焼く」 jee-te → ee-te
 b. 「掃く」 hawe-te → hae-te

2.6 派生規則の概観

表 2 に、各規則の適用を受ける例が一つ以上示されるように、適用過程をまとめる。

表 2 テ形派生規則の適用

	基底	有声化	子音交替	母音融合	母音削除	半母音削除	出力
付く	tuk-te	N/A	tuite	tiite	N/A	N/A	tiite
引っ付く	hittuk-te	N/A	hittuite	hittiite	hittite	N/A	hittite
搔く	kak-te	N/A	kaite	keete	N/A	N/A	keete
漕ぐ	kog-te	kogde	koide	keede	N/A	N/A	keede
繋ぐ	tunag-te	tunagde	tunaide	tuneede	tunede	N/A	tunede
消す	kes-te	N/A	keite	keete	N/A	N/A	keete
飛ぶ	tob-te	tobde	toude	toode	N/A	N/A	toode
座る	donzjagom-te	donzjagomde	donzjagoude	donzjagoode	donzjagode	N/A	donzjagode
歩く	ajum-te	ajumde	ajuude	N/A	ajude	N/A	ajude
笑う	waraw-te	N/A	waraute	waroote	warote	N/A	warote
焼く	jak-te	N/A	jaite	jeete	N/A	eete	eete

2.7 ここまでの結論

先行研究で提唱されてきた形態音韻規則に (3,4) の規則を追加することで、変則的な短母音の出現を含めた黒木方言のテ形派生が音韻的に予測可能なものとして理解できた。

3 他方言への適用

黒木方言では (3,4) の規則によって変則的な短母音の出現が理解されることがわかったが、これは変則的な短母音が出現する他方言にも適用可能である。例として、有元 (2012) が示している、熊本県阿蘇郡高森町方言と大分県日田市上津江町方言のデータを挙げる (語形の表記は原文ママ)。

- 高森町方言
 - asoɕikita (遊んできた)
 - to:ɕikita (飛んできた)
- 上津江町方言
 - asuɕikita (遊んできた)
 - ko:ɸikita (買って来た)

これらの語形も、(12, 13) のように、元々存在した長母音が規則の適用を受けて短母音化したと仮定すれば理解できる。

(12) 高森町方言

	(a) 「遊んで」	(b) 「飛んで」
入力	asob-ti	tob-ti
形態音韻規則	asoo-di	too-di
(3) 韻脚形成規則	(aso) <u>o</u> -di	(too)-di
(4) 母音削除規則	(aso)-di	N/A
出力	/asodi/	/toodi/
表層形	[asoɕi]	[to:ɕi]

(13) 上津江町方言

	(a) 「遊んで」	(b) 「買って」
入力	asob-ti	kaw-ti
形態音韻規則	asuu-di	koo-ti
(3) 韻脚形成規則	(asu) <u>u</u> -di	(koo)-ti
(4) 母音削除規則	(asu)-di	N/A
出力	/asudi/	/kooti/
表層形	[asuɕi]	[ko:ɸi]

4 結論

本研究では、黒木方言の形態音韻論において未解決の問題であったテ形語幹末の変則的な短母音の出現を、韻脚を基にした音韻規則で理解できることを示した。また、この規則が局所的な個別方言の記述に留まらず、同様の現象を持つ方言へも適用可能であることを示した。

テ形語幹末に長母音が表れる方言のうち、なぜ変則的な短母音が出現する方言とそうでない方言があるか(系統的要因、地理的要因、類型的要因のいずれかか、あるいはランダムか)を考察することが今後の課題である。

参考文献

- 有元光彦(2007)『九州西部方言動詞テ形における形態音韻現象の研究』ひつじ書房。
- 有元光彦(2012)「タイプ PD””, PG 方言の発見：熊本県北東部・大分県中西部方言の動詞テ形における形態音韻現象」『研究論叢. 第1部・第2部, 人文科学・社会科学・自然科学』, 62: 37-55.
- 黒木邦彦(2015)「音韻規則」窪菌晴夫・森勇太・平塚雄亮・黒木邦彦(編)『甌島里方言記述文法書』, 第2章, 30-49. 東京: 国立国語研究所。
- 下地理則(2016)「音素論と形態論の中間報告」下地理則・小川晋史・新永悠人・平塚雄亮・坂井美日(編)『尾前調査班中間報告書-宮崎県椎葉村尾前方言 簡易語彙集と文法概説-』 東京: 国立国語研究所。